

アネスト岩田株式会社 2021年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

2020年11月10日

東証1部 機械

証券コード 6381

1926年創業

(旧社名：岩田製作所)

米国社製を手本に
スプレーガンの製造を開始

スプレーガン

塗装用ハンドガン



製品の差別化を
可能にしたコンセプト

- ・環境対応
- ・塗面作成の提案力



- ・オイルフリー化
- ・省エネ性

製品の多様化
用途の開拓



塗装ロボット



エアブラシ

コーティング事業

塗装機器：
スプレーガン、塗料供給ポンプなどの機器単体

塗装設備：
塗装機器と排気や乾燥装置、塗装ロボットなどを組み合わせたシステム

コンプレッサ

空気圧縮機

スプレーガンの検査用
圧縮機として製造開始



オイルフリースクロール型真空ポンプ



オイルフリースクロール型圧縮機

エアエナジー事業

圧縮機：
空気圧縮機、N2ガス発生装置、タンクなどの補器類

真空機器：
真空ポンプ、バルブなどの補器類

感染拡大の影響はあるものの、カスタマイズ製品が下支え

地域により回復の程度が異なるが、下期もこの影響は継続するものと推測

	影響度	エアナジ事業	コーティング事業
日本	大	<ul style="list-style-type: none"> 設備投資の先送りなどから、ほとんどの生産工場で使用される汎用の小形圧縮機販売にマイナスの影響 車両搭載向けなど、都度の仕様決定が必要なカスタマイズ製品について、商談の遅延が発生 半導体製造装置関連の市場は回復傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車補修市場を主として緩やかに回復 反面、工業塗装市場にて回復遅れ 環境装置に関する設備投資は先送りの傾向が見られるため、マイナスの影響 塗装設備については、営業活動の減少から、下期の案件獲得や商談の進捗に対する影響
ヨーロッパ	大	<ul style="list-style-type: none"> 第2波の影響から汎用圧縮機は減少 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車補修市場は、やや回復 エアブラシ好調も、工業塗装市場で回復遅れ
中国	中	<ul style="list-style-type: none"> 国内需要は前年並みにまで回復 	<ul style="list-style-type: none"> 塗装設備にて、営業活動の不足や計画延期などの影響
インド	大	<ul style="list-style-type: none"> 現地子会社の生産再開 医療向け圧縮機は需要増加 	<ul style="list-style-type: none"> 木工市場は回復傾向も、全体的な復調には時間要
アセアン	大	<ul style="list-style-type: none"> 自動車関連の設備投資が減少 タイ、ベトナムは前年並みまで回復も不安定 	<ul style="list-style-type: none"> タイ、ベトナムは、木工市場の回復などから前年並みまで回復
その他	中	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ、ブラジルで医療向け圧縮機の需要増加 アメリカで真空機器の需要増加 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車補修は緩やかに回復傾向 アメリカでエアブラシ販売が好調

新型コロナウイルスの影響もあり前年同期比減収減益

売上高：16,531百万円（前年同期比 △3,003百万円、△15.4%）

営業利益：1,430百万円（同 △791百万円、△35.6%）

エアエナジー 事業

- ・新型コロナウイルスの影響もあり減収
- ・医療向けオイルフリー圧縮機やアメリカにおける真空ポンプの売上は好調

売上高：9,528百万円（前年同期比：△1,789百万円、△15.8%）

（ご参考）

営業利益：802百万円、利益率 8.4%（同：△190百万円、△19.2%）

コーティング 事業

- ・新型コロナウイルスの影響もあり減収
- ・エアブラシや塗装設備の売上は好調

売上高：7,003百万円（前年同期比：△1,214百万円、△14.8%）

（ご参考）

営業利益：627百万円、利益率 9.0%（同：△601百万円、△48.9%）

（注）事業別営業利益は当社グループ独自の基準により算定

2020年6月発表の予想値を大幅に上回り、業績・配当予想を上方修正

日本での効率的な生産、カスタマイズ製品による下支え、販管費のコントロールなどにより、
 期初予想を上回る

*** 2021年3月期通期業績予想は、11月10日に修正発表 ***

	2020年3月期2Q		2021年3月期 2Q		前年同期比			2021年3月期通期業績予想			
	実績 (百万円)	利益率 (%)	実績 (百万円)	利益率 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)	利益率 変化 (P)	期初		修正後	
								予想値 (百万円)	進捗率 (%)	予想値 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	19,535	—	16,531	—	△3,003	△15.4	—	30,000	55.1	32,500	50.9
営業利益	2,222	11.4	1,430	8.7	△791	△35.6	△2.7	500	286.0	2,400	59.6
経常利益	2,352	12.0	1,759	10.6	△593	△25.2	△1.4	800	219.9	3,000	58.6
親会社株主 帰属純利益	1,483	7.6	1,131	6.8	△352	△23.7	△0.7	650	174.0	1,800	62.8
平均為替レート 円/米ドル	110.05 円		108.27 円		△1.78 円 (円高)			105.00 円		(変更なし)	
平均為替レート 円/ユーロ	124.32 円		119.30 円		△5.02 円 (円高)			115.00 円		(変更なし)	
平均為替レート 円/人民元	16.20 円		15.39 円		△0.81 円 (円高)			15.00 円		(変更なし)	
配 当	中 間	12円 (10円)		期 末 予想値	12円 (10円)		年 間 予想値	24円 (20円)			

4 ※()内は期初配当予想値

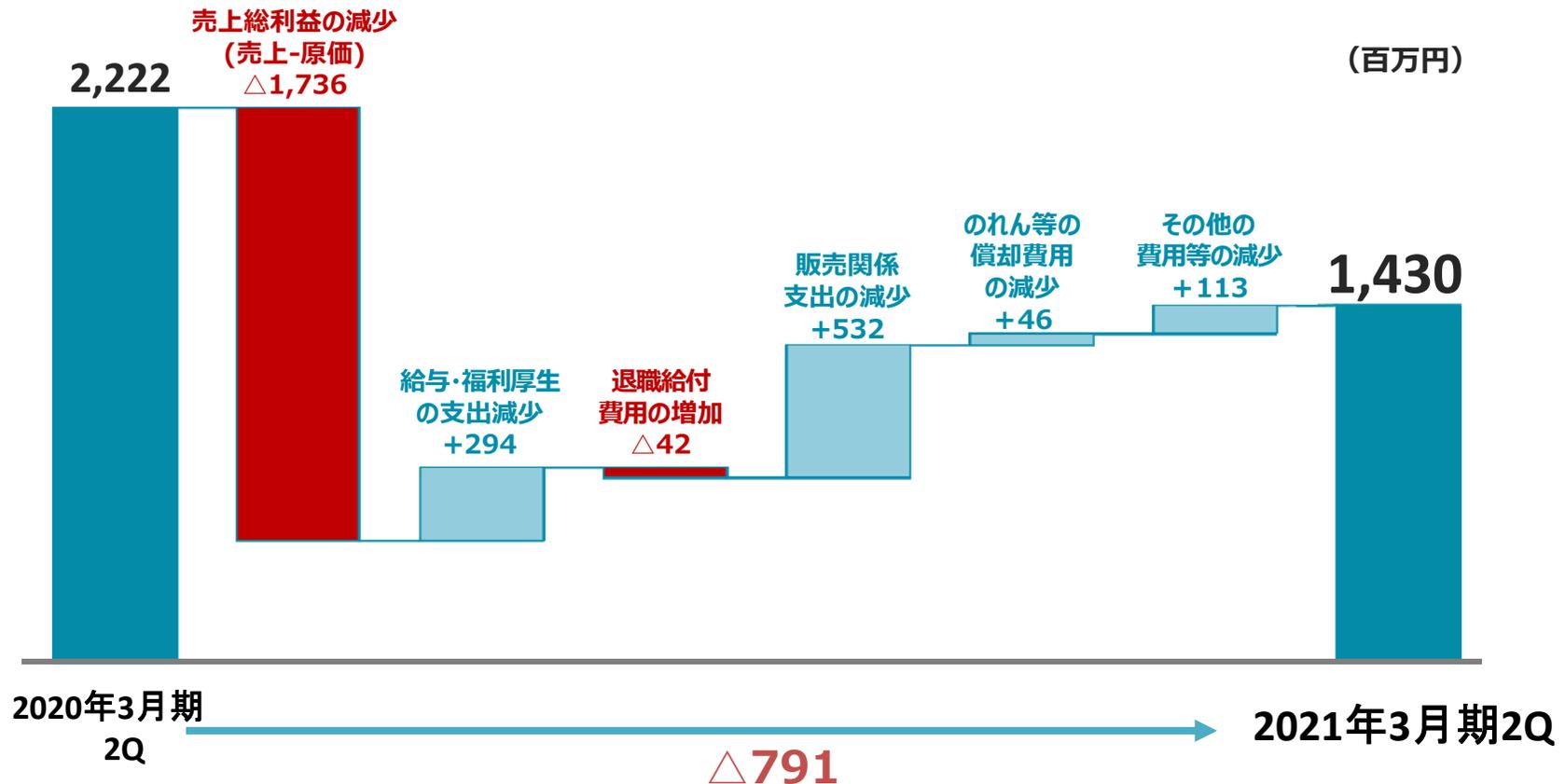
売上原価率は若干上昇、販売管理費比率はほぼ前年同期並み

- ・ 売上高：為替変動による影響額（-434百万円）
 - ・ 売上原価：塗装設備製品の在庫や計画生産*に伴う在庫の積み増しなどにより売上原価率が上昇
- *計画生産：直近の需要変動に左右されることなく計画的に生産することで生産性の向上、期末の需要増などへの対応を可能とする。また、コロナ禍では、帰休日の取得に伴う工場負荷調整や物流機能の混乱により、製品の供給が滞ることを回避。

	2020年3月期2Q		2021年3月期2Q		前年同期比		
	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)	構成比率 変化 (P)
売上高	19,535	—	16,531	—	△3,003	△15.4	—
売上原価	10,958	56.1	9,690	58.6	△1,267	△11.6	+2.5
売上総利益	8,577	43.9	6,840	41.4	△1,736	△20.2	△2.5
販売管理費	6,355	32.5	5,410	32.7	△944	△14.9	+0.2
営業利益	2,222	11.4	1,430	8.7	△791	△35.6	△2.7
営業外収益	327	1.7	453	2.7	125	+38.4	+1.1
営業外費用	197	1.0	125	0.8	△72	△36.6	△0.3
経常利益	2,352	12.0	1,759	10.6	△593	△25.2	△1.4
特別利益	56	0.3	77	0.5	21	+37.4	+0.2
特別損失	109	0.6	100	0.6	△9	△8.6	+0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,483	7.6	1,131	6.8	△352	△23.7	△0.7

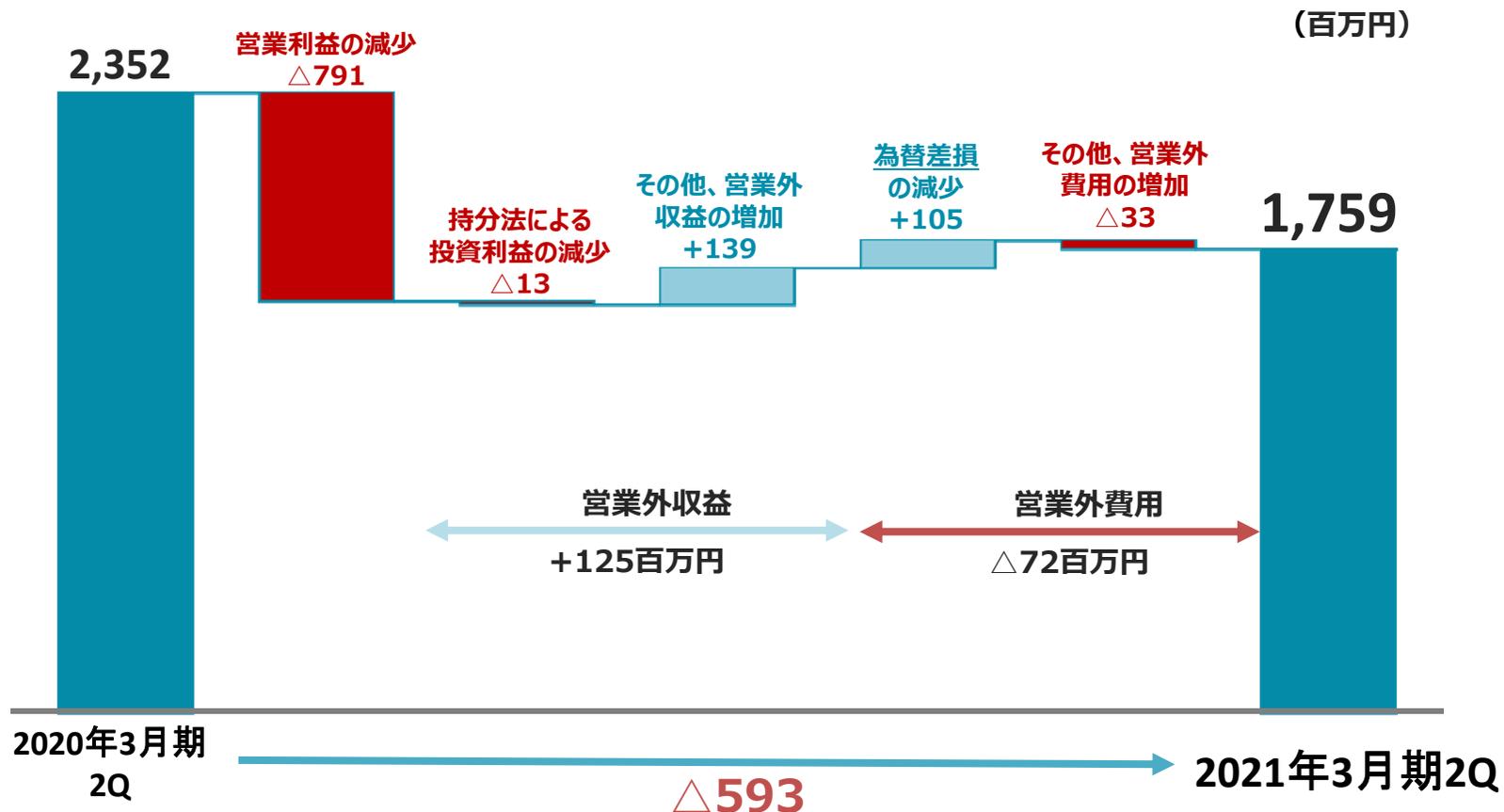
減益も、販売管理費の支出減少などにより当初見込みを上回る

- ・ WEB会議システムの活用などによる旅費交通費の減少
- ・ 償却費（有形及び無形固定資産）は減少
のれん（無形固定資産）の償却額：101百万円（前期比△37百万円）
- ・ 展示会の中止などによる広告宣伝費の減少



営業外収益は改善

- ・雇用調整助成金などにより、その他、営業外収益の増加
4・5月分→特別利益、6～9月分（104百万円） →営業外収益に計上
- ・為替差損の減少



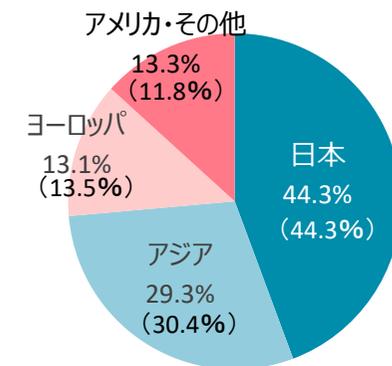
コロナ禍の影響あるものの日本・海外の売上構成比は変化なし

- ・日本：減収。企業収益の減少や感染再拡大への備えから設備投資に慎重な見方が拡大
自動車部品塗装向けの塗装設備は堅調に推移
- ・ヨーロッパ：減収。ロックダウン措置により経済活動が停滞した影響大
- ・アジア：減収。中国の緩やかな回復、インドにおける医療向けオイルフリー圧縮機の需要増加があったものの、一般産業向け圧縮機の販売や工業塗装市場の回復遅延
- ・北米その他：減収。アメリカにおいて医療向けオイルフリー圧縮機やエアブラシ、真空ポンプの需要が増加

(百万円)	2020年 3月期2Q	2021年 3月期2Q	増減額	増減率 (%)	エアエナジー事業		コーティング事業	
					圧縮機	真空機器	塗装機器	塗装設備
日本	8,646	7,327	△1,318	△15.3	×	×	×	◎
ヨーロッパ	2,629	2,168	△460	△17.4	●	×	×	—
アジア	5,947	4,842	△1,105	△18.6	×	×	×	×
北米その他	2,312	2,193	△118	△5.1	×	◎	●	◎
合計	19,535	16,531	△3,003	△15.4	×	●	×	◎

◎ 10%～ △ 0%～3% ○ 3%～10%
 ▼ 0%～-3% ● -3%～10% × -10%～

■ 構成比
2021年3月期2Q
(2020年3月期2Q)



新型コロナウイルス感染拡大の影響で今期は16.9%減収を予想

売上高

日本：前期比△20%程度

緩やかな回復を見込むも、汎用市場向け製品割合が多い圧縮機は慎重な設備投資の影響を受ける見通し。上期の営業活動が不足した塗装設備は、下期の売上には至らずと推測。

アジア：前期比△10%程度

中国は圧縮機が前期並みに戻るも、塗装設備は上期の営業活動不足から減少を見込む。インド、ASEANの回復には時間が必要。

ヨーロッパ：前期比△10%程度

下期は新型コロナウイルス第二波の影響を受ける見通し。

北米その他：前期比△10%程度

アメリカは圧縮機にて前期以上を見込むも、塗装機器の回復には時間を要する。

営業利益

日本における効率的な生産体制、及び旅費交通費、広告宣伝費などのコントロールを継続すること、一方でIT投資では具体的な支出が始まることなどの結果として、通期の営業利益を24億円と見込む。

期初計画を上回る

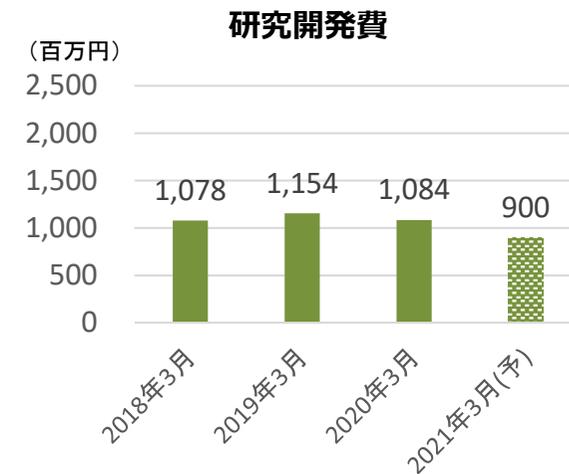
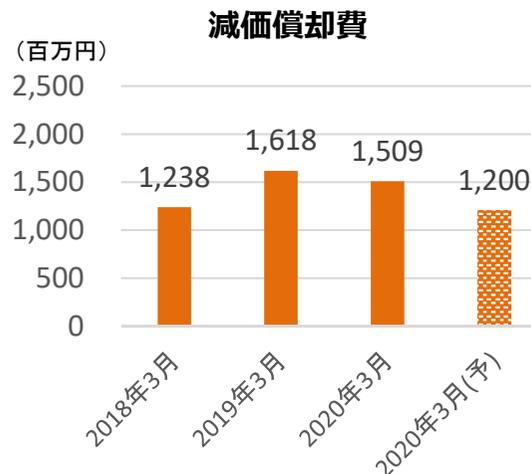
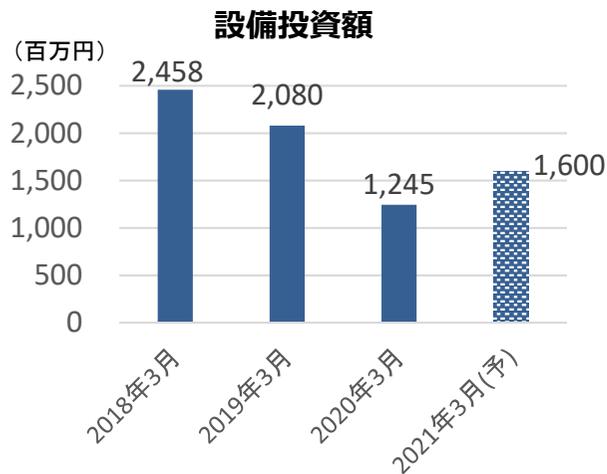
売上高32,500百万円（期初計画比+2,500百万円）、営業利益2,400百万円（同+1,900百万円）

(百万円)		2021年3月期2Q		2021年3月期（予想）			
		実績	前年同期比	期初予想 (6/10発表)	修正後予想 (11/10発表)	対期初 計画比	前年同期比
売上高		16,531	△15.4%	30,000	32,500	+8.3%	△16.9%
エアエナジー	圧縮機	8,858	△16.4%	—	—	—	—
	真空機器	670	△7.9%	—	—	—	—
	小計	9,528	△15.8%	17,150	18,730	+9.2%	△15.7%
コーティング	塗装機器	5,184	△21.4%	—	—	—	—
	塗装設備	1,819	12.1%	—	—	—	—
	小計	7,003	△14.8%	12,850	13,770	+7.2%	△18.4%
営業利益		1,430	△35.6%	500	2,400	+380.0%	△38.1%
エアエナジー		802	△19.2%	180	1,120	+522.2%	△36.9%
コーティング		627	△48.9%	320	1,280	+300.0%	△39.1%
経常利益		1,759	△25.2%	800	3,000	+275.0%	△31.8%
親会社帰属当期純利益		1,131	△23.7%	650	1,800	+176.9%	△33.8%
平均為替レート 円/米ドル		108.27	(実績)	105.00	105.00	(変更なし)	
平均為替レート 円/ユーロ		119.30		115.00	115.00		
平均為替レート 円/人民元		15.39		15.00	15.00		

- ・通期の設備投資額（現状の見込）は1,600百万円。この内、IT投資は2Qより本格化し106百万円実施、下半期は約500百万円を実施予定。
- ・減価償却費（現状の見込）は1,200百万円。研究開発費は変更なし。

(百万円)	2021年3月期2Q実績			
	設備投資額	減価償却費	研究開発費*	売上高
実績（現状の見込比）	450 (28.1%)	699 (58.3%)	483 (53.7%)	16,531
期初計画	2,000	1,400	900	
現状の見込	1,600	1,200	900	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各種工作機械、自動化設備等 ・製品開発 ・IT関連投資 			

(注) 研究開発費：研究開発に係る一般管理と製造経費の合計値



配当方針

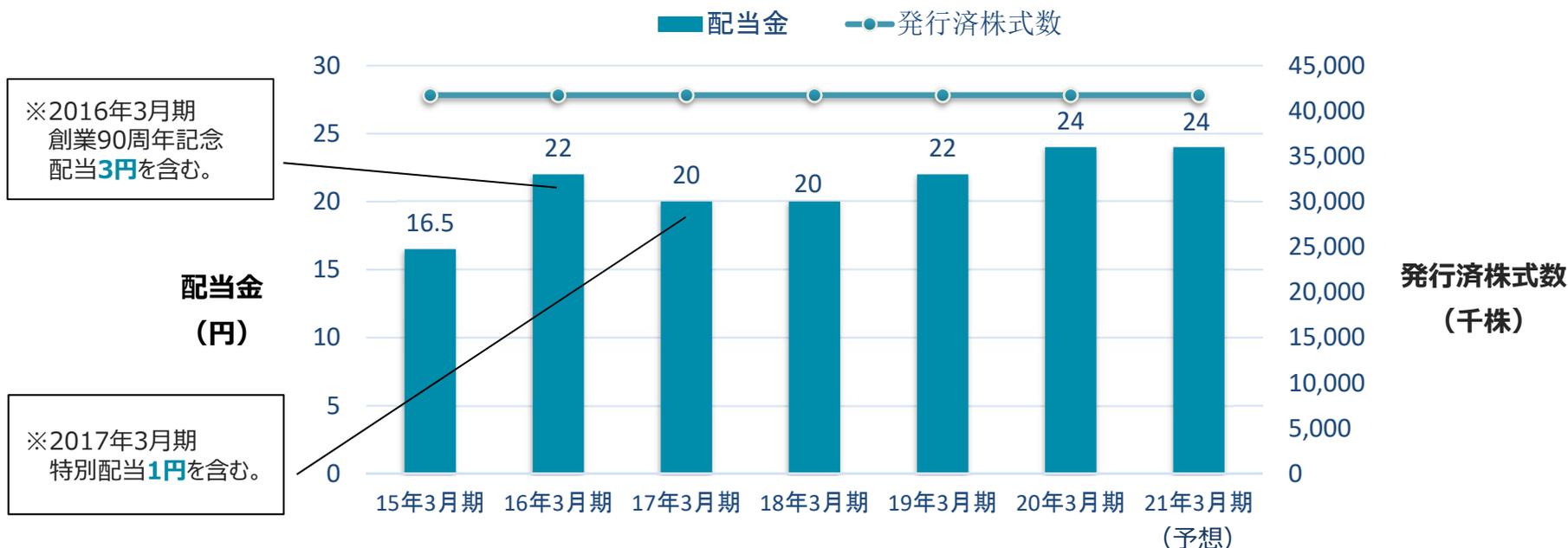
成長投資の為の内部留保を確保すること及び安定配当の両立。
配当性向を30%以上とし、2022年3月期末時点で35%以上を目指す

配 当

2021年3月期： **年24円**（中間12円 + 期末12円）予想

● 2020年11月10日に修正発表をいたしました

■ 配当金と発行済株式数(自己株式を除く)の推移



2020年11月10日に、「自己株式の取得に関するお知らせ」を発表いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由について

当社は、株主還元及び資本政策の一環として、成長戦略の実施に必要な財務基盤を維持するとともに、機動的かつ弾力的に自己株式取得を実施する方針としております。この方針を踏まえ、自己株式の取得を通じて、より一層の株主還元の強化と資本効率の向上を図るものであります。

2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 : 76万株（上限）
（発行済株式数（自己株式を除く）に対する割合 1.82%）
- (3) 株式の取得価額の総額 : 5億円（上限）
- (4) 取得期間 : 2020年11月11日～2021年3月31日

（ご参考）2020年9月30日時点の自己株式の保有状況

発行済株式数（自己株式を除く）	:	41,738,802株
自己株式数	:	6,703株

エアエナジー事業における強み

- ・ニッチ分野へ集中して投資
- ・技術ノウハウの蓄積が豊富
- ・グローバル需要の取込みと供給能力

◆汎用製品とカスタム製品について

- 汎用製品・・・カタログに掲載し、メーカー希望小売価格を設定
- カスタム製品・・・顧客の要求仕様に基づき製作都度の価格設定
- ※圧縮機売上の約80%が汎用製品

新型コロナウイルス禍における医療市場への販売拡大

●医療施設の需要急増により医療向け圧縮機の売上が増加

- ・グローバルに生産拠点を持つ強みを発揮。インド、ブラジル、米国、韓国などの医療施設向け特需を獲得
- ・PCR検査キット製造工程に当社真空ポンプが採用され、売上が牽引

●2024年までに医療向け圧縮機の世界シェア15%獲得を目指す

新型コロナウイルス禍の終息後も、新興国を中心に病院の新設、医療設備の増加や更新など、恒常的なニーズの継続が見込まれることから、医療用に適したオイルフリー圧縮機の販売に注力

＜当社圧縮機セグメントに対する医療向け圧縮機売上比率＞

2019年度：約5% ➡ 2024年度：約15%（計画）

（参考）医療向け圧縮機世界市場規模：約200億円（当社推定）



医療機器展示会出展ブース

コーティング事業における強み

- ・ニッチ分野へ集中して投資
- ・技術ノウハウの蓄積が豊富
- ・グローバル需要の取込みと供給能力

塗料以外の液体塗布市場を開拓

●新型コロナウイルス禍に伴う感染防止対策機器の需要増加に対応

▶ 除菌液塗布ツールや飛沫拡散防止用フェイスシールドを販売

『除菌液散布ツール』

- ・コーティング用機器のトップメーカーとしての技術を活用
- ・鉄道・バスなどの運輸、運送、航空各社への販路拡大を目指す
用途：医療機関や学校、ホールなどの公共施設、飲食店などでの除菌
特徴：短時間に、広範囲を除菌可能

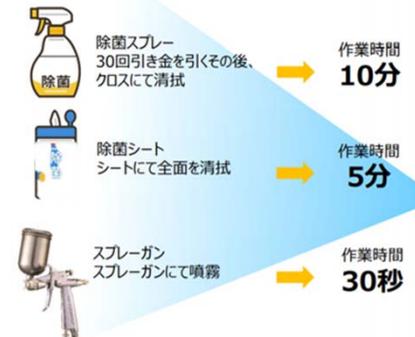
『フェイスシールド』

- ・元来はエアブラシ使用時のハネ返り防止用として開発



フェイスシールド

●同じ面積を除菌した場合（900×1200のテーブル5台で比較）



スプレーガンで素早く手軽にムラなく除菌！



除菌液塗布ツール

こんなところにお使いいただけます。



新製品の上市

エアエナジー事業：圧縮機

『給油式タンクマウントスクルーコンプレッサ“LRST”』

中国の連結子会社である上海斯可絡圧縮機有限公司が製造・販売しているモデルを日本の市場要求に合わせて改良し販売

〈主なターゲット〉

小～中規模の生産工場における生産用機器のエア源



コーティング事業：塗装機器

『中級レンジスプレーガン“KATANA”シリーズ』

当社グループが注力してきた高度な微粒化や塗装面を求められる市場以外での販売ボリュームアップを目指す

〈主なターゲット〉

DIYなど、一定以上の仕上がりやリーズナブルな価格が求められる市場

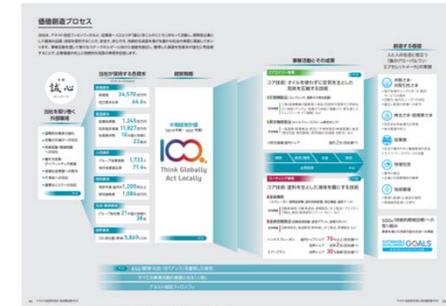


統合報告書2020の発行

2020年10月に発行

〈新規コンテンツ〉

- ・価値創造プロセス
- ・持続的な価値創造に向けた戦略
- ・当社事業の強みや機会/リスク



トップインタビュー

コロナ前においても持続的成長を図るため、中期経営計画を厳密に推進しています



こちらより
ご覧いただけます

将来見通しに関する記述、及びその他の注意事項

本資料で述べられております当社の将来に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

世界経済、為替レートの変動、業界の市況、設備投資の動向など、当社業績に影響を与えるさまざまな外部要因がありますので、資料に記載の内容とは異なる可能性があることをご承知おきください。

また、資料は投資家の皆様への情報伝達を目的としており、当社の株式、その他の有価証券等の売買等を勧誘又は推奨するものではありません。